

# パナソニック松愛会・京都支部／新春懇親会

2020年1月13日(月) 京都タワーホテル 9階 『八閣の間』

- 第1部：邦楽『箏・三絃・地歌』の淺川 京子による古典から現代曲までの演奏
- 



## 【演奏次第】

1. 『千鳥の曲』 8分 箏 吉沢検校作曲 19世紀後半 名古屋

「古今和歌集 賀の部 詠人知らず」より

「塩の山 差出の磯(山梨市 笛吹川北東部 兄川・弟川の合流地)に 棲む千鳥  
君が御代をば 八千代とぞ啼く」

2. 『櫻川』 8分 三絃 光崎検校作曲 石野某作詞

歌詞は能『櫻川』から取り入れてはいるが、内容は無関係で、桜の名所として名高い常陸・筑波山から流れる櫻川の様子を歌う。

3. 『春の海』 8分 箏 宮城道雄作曲 1929(昭和4)年

歌会始の勅題「海辺の巖」に因み、1917年上京の際、航路で旅した瀬戸内海をイメージ。静かに打ち寄せる波々、漁師の船を漕ぐ櫂の音、海鳥の声などを印象的に表現。

4. 『鳥のように』 9分30秒 箏 沢井忠夫作曲 1985年

「鳥のように自由に空を飛べたら、と云う想いは誰しも持っているが、普段はあまり表立たない。けれども何かのきっかけで人はそれをふと感ずる、例えば 飲びの時 憧れの時」とは作曲者 沢井忠夫の言。

一曲9分30秒の中に、ある若鶴の力強い滑空、緊張、闘い、別れ、孤独、再開、安らぎ、再び勇気を持って大空へ、と云うような、ドラマティックな展開が想起される。皆様はどの様にお感じになるでしょうか？